

# 農園便り 7月号 (126号)

2023/7/1

文責 筒口 典康

妻の「白内障手術入院」に付き添いましたところ、院内で風邪をいただく。「院内感染」である。(6/12) この日、台風2号が四国中国に襲来。

数日前に妻は検査で同病院に行きました。その日から体調を大きく崩しまして、入院を止めようかと心配しておりました。そこで…、付き添ったという次第です。私も「院内感染」。丸々1週間。微熱、クシャミと鼻水、…。症状に合わせて薬局で「ルルアタックIA」を買い飲む。やや回復したので、入浴もした。早寝。だが、ついに37.2℃。発熱する。近くの耳鼻科医院に行く。(6/19) ついに「夏風邪」で、ダウン…。同医院でいただいた薬の効果で調子が良くなってきた。久しぶりに農園に行く。(6/20)

**6月20日、巨大なキュウリ、ナスに驚く。** ミニトマト、ツルナ、レタスもGet。胡瓜も茄子も、種子はまだ無く、柔らかで、味噌をつけて、そのままいただきました。おいしい。



6/24 手前左、サツマイモの鉢 クロレタリア ナス キュウリもトマトも絶好調

**キュウリ** 初なりの幼い実を全て取り除く。5節までの脇芽を徹底的に摘む。地表から5~60cmまでの脇芽を全部、取る。すると、株全体が元気に育ちだす。柵になったところで先端の「芽」を止める。

元肥と追肥は、自作の「腐葉土」、粉碎した「マルタ玉肥」(tel:80280-56-1100 長浜商店⇄生活クラブ生協)と「蟹殻」(芝勝商店)をまぜてキュウリ株の上に置く。ラクラク・オクオクの軽作業。ただ置くだけです。撒くだけです。楽々の軽作業。「追肥」です。区民農園2年目入って、作業が楽になってきました。

キュウリの株が元気な時の実は、直長。柄の近くから花カラの先にかけて

膨らんでいく。7月に入って株が疲れてくると曲がりだす。痩せた瓢箪のように曲がりだす。追肥と水やりで、元気になる。地表近くの葉が黄色くなってきたものは、早々に切り取る。

やがて、苗を植えた時に播いておいたものも花芽を付けだす。9月ごろまで、続けていただけそうである。順次、刈草でマルチをしていく。

瓜の根は非常に弱いので板を置いて、踏み圧から守る。板を敷くと、土中の「生き物たち」も守られる。それと、板の上は「仮通路」になります。「菌」「ミミズ」「トビムシ」などの生命があふれてくる。

**ナス** 茄子は、多肥、「水」大好きな植物である。木嶋利男先生の「野菜の性格アイデア栽培」を読むと、ナスの原産地は、インド東部のモンスーン地帯で、森林の近くの平地に育つ。説明の図の中に小川も流れていて、土中の含水量が多そうだ。とにかく「水」大好きな植物である。

「やさい畑」2022年6月号の特集、「小菜園徹底使い回し」の記事(p91)の「水と植物」「養分と植物」のグラフで、見合った畝(区画)に植える。茄子は、「多肥」を好む。「水」を好む。

**ナス畝の三層構造** ナス畝は、深さ、幅を、「大シャベ」の大きさに作ります。そこに有機物肥料を多めに入れて混ぜる。その畝の上に籾殻燻炭層1センチ、層状に置く。更にその上に、自作の有機の培養土を積む。三層構造の高畝にするのである。

「竹」「笹」の枝葉でマルチする。「竹チップ」が手に入る場合は、それも使う。燻炭層の下の元肥の有機肥料の中に「蟹殻」も多めに混ぜる。

籾殻燻炭層は生長してくる茄子の根先が当たり刺激されて分岐(根)する。根量が増えるのである。吸肥量が増えるのである。

「竹」の殺菌力。「蟹殻」で養われた「放線菌」の力を使うのである。「悪玉菌」対策である。後は、水と追肥。「大きくなーれ、大きくなーれ」「美味ゅうなーれ、美味しくなーれ」、なのであります。今年は、トマト畝も籾殻燻炭層を作ってみた。高畝で栽培している。

7月中下旬に入ると、強い日照りで葉が委縮してくる。委縮は、罹病した場合もおこる。徹底的に小さな脇芽を取る。収穫したら、強い芽を残して芽先を切る。黄変した元葉は取り除く。3本の主枝を大切に作る。上向きに誘導する。下向きの柄、水平の枝を取る。グングン3本の主枝が伸びるようになる。インドでは樹木のように枝が広がる。根際は腕の太さになると言う。

**トマト** 大玉トマト「麗果」2本と中玉・ミニ2本ずつを植える。「花倶楽部」(通販)で「ミートハウス」なる巨大トマトを2年ほど作りました。

「ミートハウス」は超巨大なトマトで生育も激しかった。体全体に生えている体毛が大きく長い。大きなトマトで旨い。だが、今年は販売を中止している。



キュウリ

長ナス

ミニトマト

南米アンデスではトマトは、火山地帯の広大な緩傾斜地に半自生。太平洋から立ち上る気団が霧となってかかる。そこらに勝手に枝を伸ばし発根して、這い回り、実る。長い体毛は水分をキャッチする装置なのであろう。日照りが強く、排水も早い火山灰土地。現地に出かけて、確認してきたいものだ…。トマトは、「排水」大好き。「停留水」を嫌う。ハウス内栽培が向いている。大きな目のU字支柱で覆ってビニールを掛け、雨除けをするのが良い。私の「小菜園」ではビニール傘を掛ける。強風で飛ばないように注意して固定する。今年のトマトも、去年と同じ三層構造の畝。ナスより少なめに施肥をする。今のところ調子が良い。体毛で虫も避けているのか？。脇芽を取るとひどい悪臭がする。これも虫の防除効果があるのであろう。

トマトは、「小肥」「乾燥」を好む植物なので、「追肥」はしない。少し離れた有機肥の追肥溝にトマト自身に養分を取りにいかすようにしている。苗を植え付ける時は、養分少な目の畝にしておく。ナス、サトイモ、ショウガのように多く散水はしない。やや高畝にしている。トマトは「小肥」でよい。

ナス、ショウガ、ミョウガ、セロリ、セリ、サトイモ 「養分大好き」「水大好き」。畝が乾きめになったら、地表から流れ出るほど散水する。高畝にしてある。染み出る程度で良い。とにかく多量の水を与える。

追肥 大シャベルの柄で作った追肥棒を足で踏みこみ、穴をあける。自作のボカシ肥を注ぐ。「蟹殻」「玉肥」も入れる。覆土する。「竹」「笹」の枝葉でマルチする。「鶏糞」を与えることもある。

クロレタリヤ アメリカ南東部のマメ科の雑草である。吸肥力が強く、根の根粒で空中窒素を固定する。根は、ネコブセンチュウを攻撃する。クロレタリヤを列植し、その脇に大根を植えてみると「根」が美肌。

クロレタリヤは大根が日照不足にならないように生育途中で、15 cmぐらいの高さで切り取る。有効である。日本の冬の冷え込みで、宿根草にはならない。夏の間、適当に切り揃えて、緑肥として地表に置く。「追肥」と「マルチ」に使うと良い。

雑草 世に「雑草」と言う言葉は合わないと言う。牧野富太郎先生もそのように言われている。(NHK朝ドラ)

地球の全生命体は係り合って、今がある。命ある地球の大循環。互いに生きて、今がある。移植ベラー一杯の土の中に、どれほどの生き物がいるのか

想像してみよう。 ウィールス、細菌、菌、藻類達がいる。 植物の種、小動物・・・がある。 居る。 岩粒、微砂、粘土・・・、が「土」になる。「水」「空気」「光」。 太陽から丁度良い位置にある地球。

植物が地上に這いあがる時「細菌」「菌」が御一緒する。大海の浅瀬に、シアノバクテリア・・・ やがて、コケ・シダの仲間が大繁殖。 地球に「酸素」が充満する。 46億年の間に全球凍結、地殻の変動が何度も発生した。 その都度、絶滅を繰り返す。 生き残った生命が再び拡散する。 で・・・、今がある。

近視眼的に、作物の生育を妨害をする「草」「病」「虫」は、悪者と決めつけられてしまうのである。

草たちの根には、「菌根菌」が共生する。「窒素」「リン酸」を共生した植物に！・・・ あたえる。 それに、「菌」「虫」たちは地上の有機物の片付け屋なのであります。 根から吸収できる成分にまで分解してくれるありがたい、ありがたいものたちなのであります。 自然の大循環の中に無駄は無いのであります。

### ツルナ、ツルムラサキ、雲南百薬草、アピオス、インゲン、キクイモ、自然薯、大根、シソ

夏の4大作物の隙間に植えています。 何ともかとも調子が良いのであります。 蔓物は、蔓の畝に。 ツルナは、強力な植物で、地表を這い回る。雑草を良く抑える。それに美味しい。 シソは、香が良くノリとの間に挟んで醤油。なんとも美味しい、美味しい。 アピオスの球根は冬の間のおつまみ。 手火鉢に埋めて焼く。豆の澱粉。 自然薯のムカゴとまた違う美味しさ。 お試しあれ。 夏の4大作物の4番目はピーマンですが、現在、水のやり過ぎで、調子を落とす。 またの機会に報告いたします。



農薬が色々売られています。 良く効きます。 しかし、農薬施用によって、土中の生命体が死滅するのであります。 N・P・Kを中心とする化成肥料も良く効きます。 生産革命・・・。 だが、旨くない・甘味が少ない・微量成分に欠ける・日持ちが悪い・野菜独自の香も臭いも無い。栄養分に欠ける。 自然の大循環が失われてしまうのですから、当然の結果です。 で、私は、使わない。 完全、無化学肥料・完全、無農薬でやっている。 結論といたしまして、完全無化学肥料・完全無農薬での栽培は可能であります。 これから、工夫を色々紹介してまいります。 伝統的な農家の工夫、外来の虫除けハーブ・・・、「木酢」「竹酢」とか。…………。 T、